

ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

2026 年 8 月 7 日
PCI-RE2026022

ロイヤルエンフィールド新型「BULLET 650」 不滅のオールドスクールが日本上陸！



- 1932 年の誕生以来、一度も途切れることなく生産され続ける世界最古のモーターサイクル、ロイヤルエンフィールド「BULLET」。その伝統を受け継ぐ、待望の最新モデルが登場
- 完璧な英国スタイルと、インドで培われた高い信頼性が融合
- 信頼性が高くパワフルな、650cc ツインエンジン・プラットフォームを採用
- 日本では 2026 年 8 月 27 日より、ロイヤルエンフィールドの正規ディーラーにて予約受付を開始。メーカー希望小売価格は 980,100 円(税込)から

2026 年 8 月 7 日：中型モーターサイクルセグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、2026 年モデルの「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」を発表。本日、2026 年 8 月 7 日(金)より予約受付を日本全国のロイヤルエンフィールド正規販売店にて開始し、8 月 27 日(木)より発売いたします。

BULLET650 の歴史

90 年以上にわたり、「BULLET」は本物志向でシンプルなバイクライフを体現し続け、時代や国境を越えてライダーたちを一つに結びつけてきました。その魂は鼓動のように今なお「BULLET」の中に響き渡り、静かな誇りとともにその歴史を纏っています。手描きの設計図が主流だった時代に誕生し、世界が変化する中でも、そのルーツを見失うことはありませんでした。各時代を駆け抜けた「BULLET」は、シンプルで普遍的なデザインと、バイク文化が育む絆という、モーターサイクルの一番の本質を受け継いできたのです。そして 90 年以上の時を経て、いよいよ新型「BULLET 650」が登場します。完璧な英国スタイルと、インドで培われた高い信頼性を融合させ、新たな姿で日本市場にデビューを果たします。

「BULLET」は常にバイクの世界に革新をもたらしてきました。今では一般的となった足元でのシフト操作や、吸排気効率を高める 4 バルブ・シリンダーヘッドといった画期的な技術をいち早く採用し、当時の新基準を次々と打ち立てたのです。さらに、工場出荷状態で時速 90 マイル（約 150km）に達する高性能ぶりを証明してみせました。1948 年には、「BULLET 350 トライアル」のプロトタイプにスイングアーム式リアサスペンションを初搭載。技術的にもデザイン的にも、バイクの歴史を大きく塗り替える飛躍的な進化を遂げました。この進化によってレースで勝利を重ねた「BULLET」は、その画期的なサスペンションシステムを市販車にも導入。これにより、同技術を搭載した世界初の量産車となりました。



1990 年代から 2000 年代にかけて、電気式セルフスターターや 5 速ギアボックスを採用したことで、英国、米国、欧州、そして日本をはじめとするアジアパシフィックなどの国際市場でもファンを獲得し始めました。2010 年には、堂々としたライディングポジション、手描きのピンストライプ、個性的なエンジン音といった特徴を維持しつつ、「BULLET」の心臓部は UCE エンジン（ユニット・コンストラクション・エンジン／トランスミッション一体型エンジン）へと移行しました。そして 2023 年、信頼性の高い 350cc の J シリーズエンジンを搭載した新型「BULLET 350」を発表。本質を受け継ぎながら、BULLET は新たな世代へと歩みを進めました。

新型 BULLET 650

2026 年モデルとして登場する「BULLET 650」は、定評ある排気量 650cc の並列 2 気筒エンジンを、実績のあるスチール製チューブラー・スパインフレームに搭載。手描きのピンストライプや、ヘッドライト上部に配置された「タイガーランプ」も採用しています。また、燃料タンクの両サイドには、立体的なウイング付きエンブレムを配置。ヴィンテージ風のベンチシートやヘッドライトナセル、背筋がピンと伸びる堂々としたライディングポジションなど、何世代にもわたり受け継がれてきた、BULLET ならではの特徴を継承しています。



BULLET 650 には、SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)、SHOTGUN 650(ショットガン・ロクゴーマル)、CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)と共通の排気量 648cc 並列 2 気筒 SOHC4 バルブエンジンが搭載されています。滑らかなパワーと軽快な加速を実現し、ゆったりとしたクルージングからスポーティな走りまで幅広く対応。さらに 6 速ギアボックスとスリッパークラッチを組み合わせることで、ストレスのない快適な走行を可能にしています。エンジンの造形と美しく調和する流麗な曲線、堂々としたボディワーク、そして威風堂々としたライディングポジション。それらすべてが、真のクラシックスタイルを持つ大排気量バイクならではの優雅さと、圧倒的な存在感を醸し出しています。



ROYAL ENFIELD

この BULLET 650 は、ライダーシートとピリオンシートが一体化した豪華なベンチシートを採用。あらゆる路面状況において、SHOWA 製サスペンションが快適な走行を提供します。また、外装類はすべてスチール製。加えてフロント 19 インチ、リア 18 インチのホイールサイズが生み出す伝統的なバランスにより、その格調高い立ち姿は唯一無二の存在へと昇華されています。立体成形のウイング付エンブレムをデザインしたティアドロップ型燃料タンクと、1954 年にロイヤルエンフィールドで初めて採用された「タイガーアイ」と呼ぶパイロットランプを備えたヘッドライトナセルは、キャスケットと呼ぶ庇（ひさし）が付いた LED ヘッドライトと合わせ、BULLET の血統を確固たるものにしています。

すっきりとしたメーター類は、アナログならではの魅力と現代的な機能性を融合。指針式のスピードメーターに加え、燃料計やトリップメーター、ギアポジション、整備リマインダーなどをデジタル LCD に表示し、必要な情報を一目で確認できるようデザインしました。



BULLET は、90 年以上にわたり時代を乗り越え、変化に適応しながらも、その本質を貫き続けてきました。その最新モデルである「BULLET 650」は、オリジナルの魂を継承したボディラインやディテールに、ロイヤルエンフィールドのツインシリンダープラットフォームが持つ先進性と力強さを融合させるべく、丹念に作り上げられています。



アジア太平洋地域事業責任者である Manoj Gajarlwar (マノジ・ガジャルワール) は、新型 BULLET 650 の発表について次のように述べています。

「ロイヤルエンフィールドは、ライダー・ファーストを掲げ、ライダーの心を揺さぶるモーターサイクルを提供するブランドとして、世界中のファンに愛されています。新型『BULLET 650』は、洗練された英国スタイルと、インドで培われた高い信頼性を融合し、伝統的な名車を現代に蘇らせました。

BULLET はこれまで、あらゆる世代のライダーにとって完璧な相棒であり続けてきました。日本においても、多くの BULLET が人々の生活に喜びと豊かな意義をもたらしています。私たちは、この偉大なレガシーを引き継いでいく責任があります。

本日、日本において新しい BULLET が、新たな姿で走り出すことを発表いたします。この歴史的な遺産を継承するという重要な役割を担えることを、私たちは心から光栄に思います」

BULLET 650 は、「Canon Black(キャノン・ブラック)」と「Battleship Blue(バトルシップ・ブルー)」2色を展開。ライダーは純正アクセサリー／ROYAL ENFIELD ACCESSORIES(ロイヤルエンフィールド・アクセサリーズ)を活用して、快適性やスタイルを好みに合わせてカスタマイズし、さらに自分だけのマシンに仕上げることができます。

新型「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」は、2026年8月7日(金)より、全国のロイヤルエンフィールド正規販売店において受注を開始。8月27日(木)より発売いたします。

バリエーション		メーカー希望小売価格
	BULLET 650 Canon Black (キャノン・ブラック)	¥980,100 (税込)
	BULLET 650 Battleship Blue (バトルシップ・ブルー)	¥995,500 (税込)

※記載の価格はメーカー希望小売価格（税込）です。

※新車登録（届出）より3年間（走行距離無制限）保証

<ロイヤルエンフィールドについて>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling／ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」、「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」、「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコニックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアンクラシック・サンゴーマル)」、「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソーブとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalenfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalenfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalenfield.co.jp>